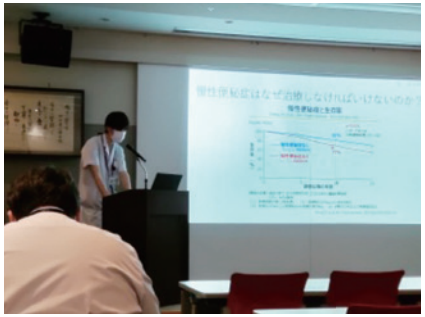
2025年
8月号

薬剤部通信

見てね！

薬剤師の活動や参加イベント情報などをお伝えしていきます！

6・7月薬剤部ゼミ



【6月ゼミ報告】

6月のゼミでは、慢性便秘症をテーマに、慢性便秘症ガイドラインを中心に診断と使用薬剤の特徴について発表しました。

便秘は「たかが便秘」と思われがちですが、実際にはサルコペニア・フレイルの悪循環や心血管イベントを引き起こす原因にもなり得る、積極的に介入すべき症状です。しかし、患者さんの下剤服用にあける満足度は低く、治療の中断などアドヒアランスの低下が起こりやすい現状がありますので薬剤師の介入が非常に重要となります。以前に比べて新しい下剤も増えていますので、ガイドラインを参考に、患者さん一人ひとりに合わせた最適な薬剤を提案していくことの重要性を皆さんと共有できたかと思います。〈小林〉

【7月ゼミ報告】

今回は学会参加報告も兼ねてイメグリミンについて発表しました。

イメグリミンはメトホルミンと構造が非常に似通っていますが、インスリン抵抗性の改善（主に糖新生抑制）だけではなくグルコース依存的にインスリン分泌を促進する作用もあります。インスリン分泌促進のメカニズムについてはまだ解明されてはおらず様々な可能性について基礎研究が進められていますが、今回の学会の中ではβ細胞内ミトコンドリア品質管理（mQC）機構の改善によるとする説が大変興味深かったです。また、腸管においてインクレチン（GIP・GLP-1）の分泌を促進することもわかっており、DPP-4阻害薬との併用により相乗的にインスリンの分泌が増加します。その他、動脈硬化に対してもポジティブな影響があるとされており、今後Additional benefitの解明に繋がっていく可能性を感じました。〈齋藤（裕）〉

日本緩和医療薬学会へ参加

薬剤師外来は国も推奨している業務の1つであり、抗がん剤投与中の患者に薬剤師外来を実施すると薬剤師が算定を取得することができるようになりました。

今回の学会で、緩和領域の薬剤師外来に関しての発表がありました。緩和領域の薬剤師外来は算定を取得することはできませんが、薬剤師外来を実施することで、痛みの評価指標であるNRSの低下や、オピオイドの副作用発現率の低下など薬剤師外来の有用性が報告されていました。今後は緩和領域の薬剤師外来でも算定を取得することが可能になると予想しています。

当院では抗がん剤を投与している患者全例に薬剤師外来を行なっています。その中には疼痛のある患者、オピオイドを使用している患者も多くいるため、積極的に介入し、より良い薬物治療を提供できるように精進していきます。〈成田〉

2025年6月20日（金）～6月22日（日）、千葉県・幕張メッセにて開催された「第18回日本緩和医療薬学会年会」に参加しました。

今回は、学会内で取り上げられた「悪液質」のセッションについてご紹介いたします。近年注目されている新薬Ponsegromab（ポンセグロマブ）は、ストレス誘発性サイトカインである成長分化因子15（GDF-15 ： Growth Differentiation Factor-15）を特異的に阻害するモノクローナル抗体製剤です。がん悪液質患者の食欲不振に対する改善が期待されています。悪液質では、GDF-15の血中濃度が上昇し、それが脳幹のGFRAL受容体に結合することで、共受容体であるRet原がん遺伝子（RET）が活性化されます。これにより、ERK、Akt、ホスホリパーゼCγのリン酸化が促進され、結果として食欲低下が引き起こされると報告されています。本薬剤は現在、臨床試験段階ですが、今後の薬品化が期待される注目の新薬です。

このように、学会では最新の知識や研究成果に触れることができ、非常に有意義な時間となりました。臨床薬剤師として、今後も積極的に学会に参加し、薬物療法の質向上に貢献してまいりたいと思います。〈木本〉

日本がん病態研究会での発表

今年は会津で開催されました。

当院では外来がん患者さんに対して診察前面談を実施しています。面談シートへ副作用や処方提案の記載に加えて、常用薬や支持療法薬の代行処方入力（PBPM）も行っており、それらの取り組みに関して発表を行いました。

この研究会はがんだけではなく、宿主の病態に関しても基礎研究で解明されたことが、今後どのように臨床につながっていくのかが活発に議論されていました。当院でも、日常業務のなかで生じる疑問をそのままにせず、「なぜ?」を出発点として臨床疑問を立て、エビデンスに基づいた解決を目指す環境があります！

若手スタッフが積極的に学会に挑戦できるようサポート体制も整えていますので、是非挑戦してほしいなと思います。〈香内〉

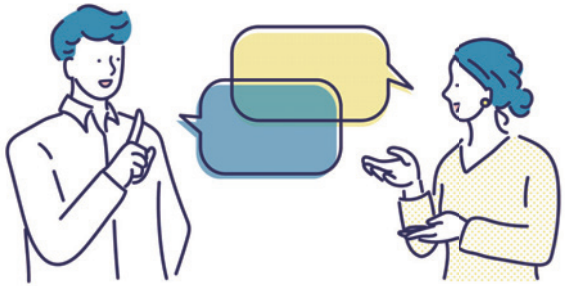
NST研修

NST研修会を通じて、栄養管理が治療全体に与える影響の大きさを改めて実感しました。特に、検査値を正しく読み解くことが患者の今後の状態を左右することを学び、薬剤師としての関わりの重要性を再認識しました。

今後は、薬物療法だけでなく栄養状態の評価や投与経路の選択、相互作用の考慮など、専門性を活かして多職種と連携し、より良い栄養サポートを提供できるよう努めていきます。〈中村〉

竹田綜合病院 薬剤部

Executive Leaders' Discussion -LD2025- に参加しました！



2025年7月6日（日）、管理職層を対象とした研修「Executive Leaders' Discussion -LD2025-」に参加してきました！

今回のテーマは「組織マネジメントとメンタルヘルスケア」です。働くみんなが笑顔で過ごせる職場づくりには、どんな小さなことから始めればよいのでしょうか？

講師から教わった明日からすぐできることがこちらです！

①まずは元気に挨拶!挨拶はチームの潤滑油。シンプルだけど、やっぱり大事です。

②雑談の力、侮るなかれ!部下とのちょっとした会話を意識的に増やし、定期的に面談の機会を設けることで、信頼関係がぐっと深まります。

竹田病院薬剤部でも、上下の壁を越えて、気軽に話ができる職場を目指しています!真面目な話も、ちょっとした雑談も、全部ひっくるめて「いい仕事」が生まれる環境づくりが進行中です（^^）/〈木本〉

このような研修会では通常「部下の相談に対してどのように話を聴くといいのか」という理想的な上司を演じて、他のメンバーから+αのアドバイスを受けるということが多いですが、今回は全くの逆で「上司役は意図的に非常に悪い態度で聞くことを目的とする（共感しない演技）」というお題でした。

グループ内のメンバーそれぞれが最悪の上司を演じることで、改めて話を“どう”聴くか、自分自身の“聴くスタイル”を見直す機会になりました。〈香内〉

基本的な点にはなりますが、組織マネジメントと労務管理は全く異なります。人手が限られている状況でチームとして結果を出していくためには、個々の能力や意欲を引き出していく必要があります。このために関係性や仕組みを整えることが組織マネジメントです。心理的安全性が高く全員が意見を交換し合える職場にし、グッドサイクルを回していきたいと思いました。

まずは朝の気持ち良い挨拶から始めましょう！〈齋藤（裕）〉

新人基礎研修を終えて

新人研修を経て、薬剤の取り扱いから分包機の使い方、ピッキング作業、ダブルチェックの重要性まで、一つひとつの手順が患者の安全に直結すること、また、患者さんとのコミュニケーションといった日々の業務で鍛えていかなければならいスキルがあるということを実感しました。

最後に、新人研修で指導してくださった薬剤師とファーマークルーの方々に感謝申し上げます。まだまだ自分に足りないこと、課題がたくさんあり、みなさんにご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、引き続きご指導のほどよろしくお願いします。日々の積み重ねが必ず自分の力になると信じて、患者やチームのために最善を尽くしていきたいと思います。〈石田〉

まず初めに3か月間の新人研修ありがとうございました。

新人研修では入職したてで分からないことだらけで不安なことしかありませんでしたが薬剤師の皆さんやクルーの皆さんが優しく丁寧に教えてくださり、一つ一つ業務を覚えていくことができました。薬剤師の仕事というのは人の命を預かっているため、ミスは許されません。どんなに小さなミスだとしても患者さんに影響が出るかもしれませんし、最悪のケースなどもありえます。

これからはその思いを常に忘れることなく、チーム医療に参加していけるように日々精進していきたいと思います〈塩川〉

社会人1年目ということで、不安や緊張を抱えながらの研修期間でしたが、皆様のおかげで無事終えることができました。感謝申し上げます。特に新人教育を担当してくださった酒井係長には、本当にお世話になりました。業務が立て込んでいる時でもあたたかく接し、丁寧に指導してくださったのが印象的です。酒井係長の優しく、ユーモアのある青人柄に大変救われた研修期間でした。心より感謝申し上げます。

基礎研修終了後は化学療法チームに配属となりました。配属後は、化学療法チームの皆様に丁寧にご指導いただいています。ご指導いただいた分成長が伴うよう、努力していく所存です。

今後ともご指導のほど、宜しくお願い致します。病棟チームの皆さまとも、日直などでご一緒する機会があると思います。その際は引き続き、ご指導いただければ幸いでございます。〈三保〉

竹田綜合病院 薬剤部

日本臨床腫瘍薬学会の外来がん治療専門薬剤師取得に向けたがん拠点病院での薬局薬剤師さんの研修が修了しました！

伊藤 稚菜 さん

普段は調剤薬局で勤務していますが、今回の病院研修ではがん患者さんと直接関わり、病院薬剤師の役割を学ぶ貴重な機会となりました。特に印象的だったのは、診察前に薬剤師が行う事前面談であり、副作用の確認や服薬状況の確認など患者さんが安心して治療に臨めるよう支援する重要性を実感しました。

また、医師や看護師など多職種と連携し、治療方針を共有するチーム医療の現場に触れることで、薬剤師の専門性が医療全体に大きく貢献していることを理解することができました。

調剤薬局では経験できない臨床現場での学びを今後の業務に活かし、患者さんに寄り添える薬剤師を目指していきたいと思います。

2025年7月オープンホスピタルに参加しました

子供たちにとっては夏休みが始まったばかりの暑い日でしたが、未就学児から高校生まで約200名の子供たちに薬剤部のブースへ足を運んでいただきました。法人本部や薬剤部の多くの方たちにご協力いただき大成功を収めることができました。

薬剤師の認知度の低さのせいか「なんとなく…」「ちょっと気になって」とあまり薬剤部が目的ではないけれど足を運んでくれた方が多かった印象です。

ですが薬剤部に来ていただいた方から「面白そう」「楽しかった」「また来年きます!」と嬉しい声を頂きました。

このイベントで子供たちが少しでも薬剤師という職業に興味を持ってくれたり、薬剤師に良い印象を持ってもらえたなら嬉しいです。〈波多野〉

今年も薬剤部としてオープンホスピタルに参加させてもらいました。このイベントは「地域の子供たちに病院で働くことに興味をもってもらう」「病院を身近に感じてもらう」ことが目的です。

薬剤部では、イベント用の処方箋を用意し、処方箋の指示に従っておはじきを集め機械で一包化する分包体験と重曹の秤量体験を行いました。

子供たちの中には、病院で薬剤師が働いていることや、薬剤師という職業を知らない子もいました。「薬剤師ってなにするの?」「どうやったら薬剤師になれるの?」など質問してくれた子供や保護者の方もいらっしゃいました。子供たちにとってはなかなか身近に感じにくい職業ですが、こういったイベントで薬剤師という仕事を知ってもらい将来の選択のひとつに薬剤師が入ってくれると嬉しいな思いました。〈武石〉

竹田綜合病院 薬剤部